

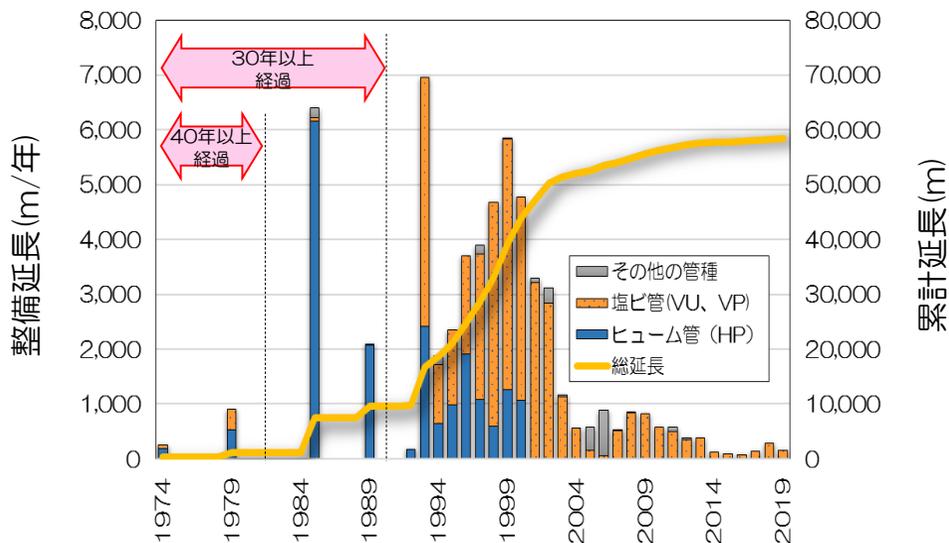
# おしえて！下水道

～皆さんの生活を支える三浦市公共下水道についてご案内～

公共下水道は、皆様の健康や安全・安心な生活を維持するために、24時間365日稼働している重要な公共インフラです。私たちは、これら下水道関連施設を長く、賢く使い次世代へと確実に引き継ぐため様々な取組を実施しております。皆様に、これらの取組を知って頂くため、公共下水道事業の経営状況などをお伝えしていきます。

## 下水道管の設置状況について

現在、三浦市内における整備済み下水道污水管の延長は約58kmあります。東部浄化センターの供用開始から約20年しか経っていないことから明らかのように、市が整備した下水道管は、損傷もそこまで進行していないと考えられます。しかし、昭和後期に開発され、譲り受けた管渠は、供用開始から30年以上を経過しているものもあり、約9km(16%程度)存在しています。これらの下水道管を主として、老朽化した下水道管を特定し、交換工事等を着実に実施していくこととなります。



東部処理区域内にある下水道管の敷設状況

## 下水道管の内部を点検しました

平成29年度には、下水道管内部のカメラ点検を実施しました。損傷等の程度に応じて分類したところ、最も緊急度の高い区間が50m(0.01%)、次に緊急度の高い区間が2,027m(3%)存在することが分かりました。この結果を踏まえ、下水道管と取付管の点検、維持管理を計画的に実施し、健全な下水道の保持や交換工事等を実施していく予定です。



-  通常の下水道管の形状
-  老朽化し変状した下水道管
-  汚水の流れ

下水道管のテレビカメラ調査の一例

## 東部浄化センターで働く微生物たち

本紙第1号の『汚水の旅』では、家庭から発生した汚水は、微生物の力を借りてきれいにしてから東京湾に放出しているとお伝えしました。東部浄化センターの中で人知れず、海を清廉に保つため、働いてくれている微生物の一例をご紹介します。彼らは、ものすごく小さいため肉眼では見えませんが、お近くを通る際には、その存在に思いを巡らせて頂ければと思います。

<p><b>細菌類</b></p>  <p>下水の中に溶けこんでいる食べ物のかすなどの有機物をえさとして食べて、どんどん増える。 大きさ:0.5μm</p>	<p><b>アメーバ</b></p>  <p>形を変えながら移動する。移動するときだけ足が生え、食べるときだけ口ができる。 大きさ:0.20~0.75mm</p>	<p><b>クマムシ</b></p>  <p>本来は土壌中に生息。高温や低温、極度の乾燥状態にも耐える。 大きさ:0.5mm~1.7mm</p>
---	--	---

日本下水道協会 下水道の教育素材(<https://www.jswa.jp/sewage/material/>)